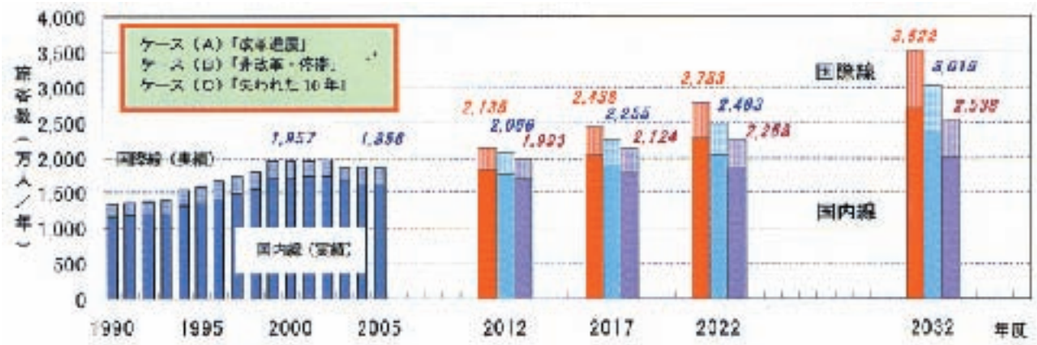
5. 福岡空港の航空需要予測の結果

1）福岡空港の国内線・国際線の旅客数

福岡空港の旅客数は、いずれのケースも増加が見込まれ、2012年には約2000～2100万人、2004年比で約1.1倍（ケース（C）～ケース（A））、2022年には約2300～2800万人、2004年比で約1.2～1.5倍（ケース（C）～ケース（A））に増加すると予測されます。国際線の占める割合は、2004年には12%であったものが、2012年には14%、2022年には17～18%となり、福岡空港においては国際線の占める割合が現在よりも大きくなると予測されます。

・予測結果は、空港容量制約を設けない場合の福岡空港の潜在需要であり、無償旅客・不定期便等を含んだ値です。
・国際線については、現在と同様の路線設定であることを前提としています。今後、現在路線のない中国をはじめとした東アジアの各都市との間に定期路線が開設された場合あるいは、査証（ビザ）の発給でアジア各国からの訪日の制約が緩和された場合には、旅客数は増加する可能性があります。また、路線の就航や廃止については、航空事業者の意向が反映されること、二国間の航空交渉によって決まること等の不確定要素があります。

■福岡空港の国内線・国際線合計利用者数予測結果



ケース		現況	予測結果（万人／年）							
		2004年	2012年	2004年比	2017年	2004年比	2022年	2004年比	2032年	2004年比
ケース（A）改革進展」	国内線	1,633	1,828	1.12	2,044	1.25	2,280	1.40	2,711	1.66
	国際線	225	307	1.37	394	1.75	503	2.24	811	3.61
	合計	1,857	2,135	1.15	2,438	1.31	2,783	1.50	3,522	1.90
ケース（B）「非改革・停滞」	国内線		1,771	1.08	1,897	1.16	2,048	1.25	2,360	1.45
	国際線		295	1.32	359	1.60	435	1.94	659	2.93
	合計		2,066	1.11	2,255	1.21	2,483	1.34	3,019	1.63
ケース（C）「失われた10年」	国内線		1,711	1.05	1,792	1.10	1,867	1.14	2,002	1.23
	国際線		282	1.26	333	1.48	391	1.74	536	2.39
	合計		1,993	1.07	2,124	1.14	2,258	1.22	2,538	1.37

資料）2004年実績値は空港管理状況調書（無償旅客・不定期便等を含む）、2005年は速報値　（年度）

5. 福岡空港の航空需要予測の結果

2）福岡空港の国内線・国際線の発着回数

福岡空港の発着回数は、2012年には15.3～16.1万回、2004年比で約1.1～1.2倍（ケース（C）～ケース（A））、2022年には16.6～19.2万回、2004年比で約1.2～1.4倍（ケース（C）～ケース（A））に増加すると予測されます。いずれのケースにおいても、福岡空港の滑走路処理容量の目安である14.5万回／年を超える結果となりました。国際線の占める割合は、ケース（A）では2004年には12%であったものが、2012年には12～13%、2022年には16～17%に増加すると見込まれます。

・予測結果は、空港容量制約を設けない場合の福岡空港の潜在需要であり、無償旅客・不定期便等を含んだ値です。
・国際線については、現在と同様の路線設定であることを前提としています。今後、現在路線のない中国をはじめとした東アジアの各都市との間に定期路線が開設された場合あるいは、査証（ビザ）の発給でアジア各国からの訪日の制約が緩和された場合には、旅客数は増加する可能性があります。また、路線の就航や廃止については、航空事業者の意向が反映されること、二国間の航空交渉によって決まること等の不確定要素があります。

■福岡空港の国内線・国際線合計発着回数予測結果

ケース		現況	予測結果（万回／年）							
		2004年	2012年	2004年比	2017年	2004年比	2022年	2004年比	2032年	2004年比
ケース（A）改革進展」	国内線	12.0	14.0	1.16	14.9	1.24	15.8	1.32	17.6	1.47
	国際線	1.6	2.1	1.34	2.6	1.70	3.3	2.14	5.4	3.43
	合計	13.6	16.1	1.18	17.5	1.29	19.2	1.41	23.0	1.69
ケース（B）「非改革・停滞」	国内線		13.7	1.14	14.2	1.18	14.9	1.24	16.3	1.35
	国際線		2.0	1.30	2.4	1.56	2.9	1.87	4.4	2.79
	合計		15.7	1.16	16.6	1.23	17.9	1.31	20.6	1.52
ケース（C）「失われた10年」	国内線		13.4	1.12	13.8	1.15	14.0	1.16	14.6	1.22
	国際線		1.9	1.24	2.3	1.45	2.6	1.69	3.6	2.28
	合計		15.3	1.13	16.0	1.18	16.6	1.22	18.1	1.33

資料）2004年実績値は空港管理状況調書（無償旅客・不定期便等を含む）、2005年は速報値。　（年度）

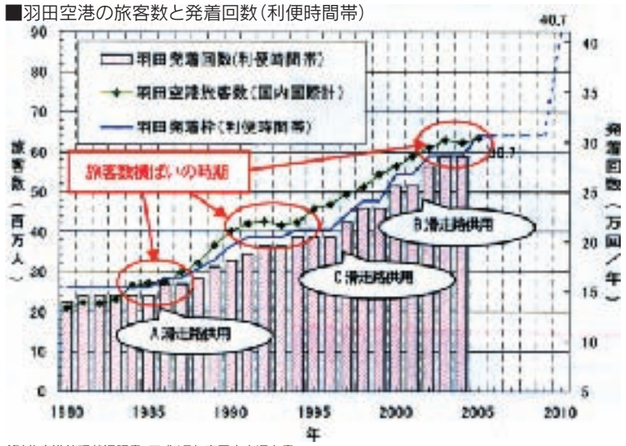
5. 福岡空港の航空需要予測の結果

コラム18 空港容量制約下における羽田空港の旅客実績の比較について

羽田空港では今日に至るまで30年間、発着枠上限域での運用が続いています。これまで段階的な拡張等によって発着枠を増加させて路線数と便数の増加に対応をしてきました。新たな滑走路供用前の1984年以前、1997年以前には数年にわたり旅客数が横ばいになっていたことが確認できます。

福岡空港については、2001年度に発着回数が14.4万回に達し、その後も、滑走路処理容量（14.5万回）の90%を超えた状態が続いていますが、この間旅客数は横ばい傾向にあり、羽田空港の例と同様の傾向にあります。なお、羽田空港の旅客数が横ばい傾向であったことについては、上記の空港容量の制約による他、1985年のプラザ合意による急激な円高、1991年のバブル景気の崩壊などの日本の経済状勢との関係も考えられます。また、福岡空港の旅客数が横ばい傾向にあることについては、日本や北部九州の経済状勢や他交通機関との競合も関係していると思われます。（P130「コラム12」参照）

■羽田空港の旅客数と発着回数（利便時間帯）

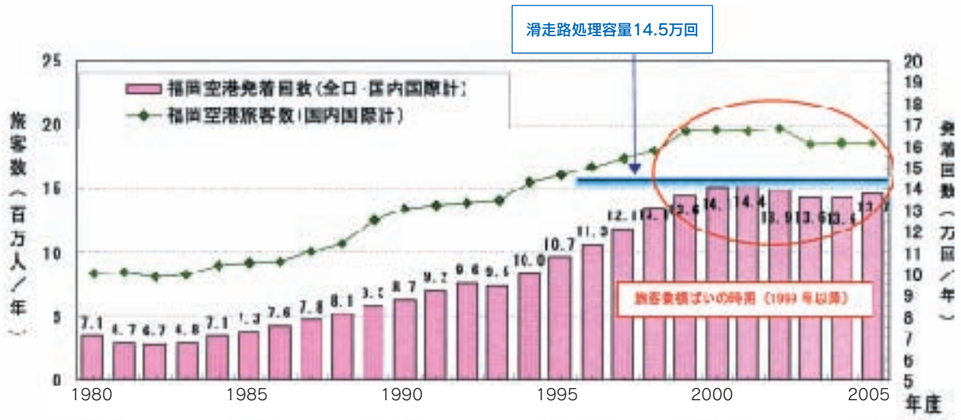


資料）空港管理状況調書、平成17年度国土交通白書
注）羽田空港の発着数・発着枠は、利便時間帯の発着回数・発着可能回数（6:00～8:30の到着、20:30～23:00の出発及び23:00～6:00の発着を除く）。

■羽田空港の拡張の歴史

年	滑走路	できごと	空港容量
1984以前	旧A:2500m 旧B:3150m	沖合展開前	15.3万回／年
1984	旧A:2500m 旧B:3150m A:3000m	A滑走路供用	18.3万回／年 （500回／日）
1990	同上	運用時間枠拡大	19.6万回／年 （537回／日）
1993	同上	第1旅客ターミナル供用	20.0万回／年 （560回／日）
1997	旧B:3150m A:3000m C:3000m	C滑走路供用 24時間運用開始	22.6万回／年 （620回／日）
2000	A:3000m B:2500m C:3000m	B滑走路供用	26.7万回／年 （732回／日）
2004	同上	第2旅客ターミナル整備	29.6万回／年 （812回／日）
2012	同上	再拡張（予定）	40.7万回／年 現在の1.4倍に

■福岡空港の旅客数と発着回数



資料）空港管理状況調書

5. 福岡空港の航空需要予測の結果

コラム19 就航機材の小型化の傾向について

福岡空港の機材構成を見ると1990年代以降、300席以上の大型機の機材数はあまり変化がありませんが、300席以下の小・中型機の機材の増加率が大きくなっています。最近の2001年から2003年の変化をみると、200席以下の機材便数は変化は小さいですが、200席以上の中大型機の便数が20便減少しており、200席以下の機材の割合は2001年から2003年に3ポイント増加しています。

また、各航空機メーカーが受注状況等から予測している将来の運航機数予測によれば、300席以下の中小型機がほとんどを占めています。

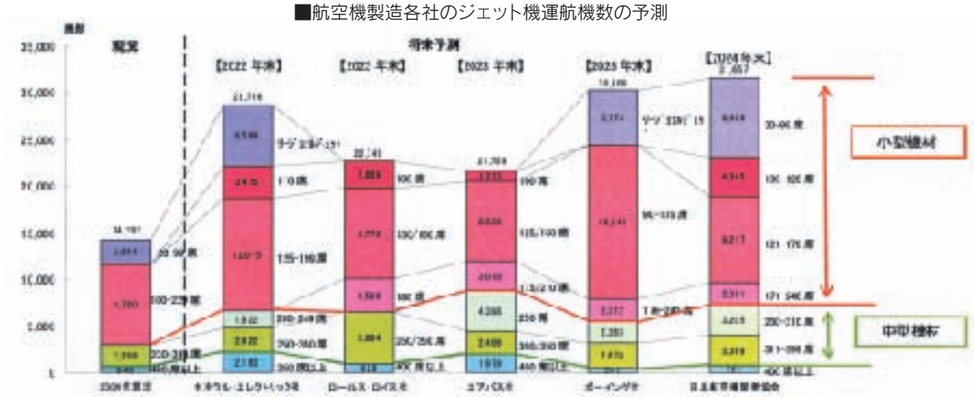
本調査では、旅客数と便数・機材構成の関係は基本的に現在の関係が続くと想定していますが、以上のことから現在よりも機材は小型化するという見方もあり、その場合は同じ旅客数でも発着回数が増加することとなります。

■福岡空港発着便の機材構成の変化（1985～2003年）

■福岡空港全便の機材構成別の1日当たり運行便数

	2001年	2003年	差
200席以上	148便	128便	20便減少
200席以下	181便	179便	2便減少
200席以下のシェア	55%	58%	+3%増加

■航空機製造各社のジェット機運航機数の予測



※ロールスロイス社、エアバス社の予測には、リージョナルジェットは含まれていません。
資料）「航空機関連データ集（2005年版）」日本航空機開発協会

5. 福岡空港の航空需要予測の結果

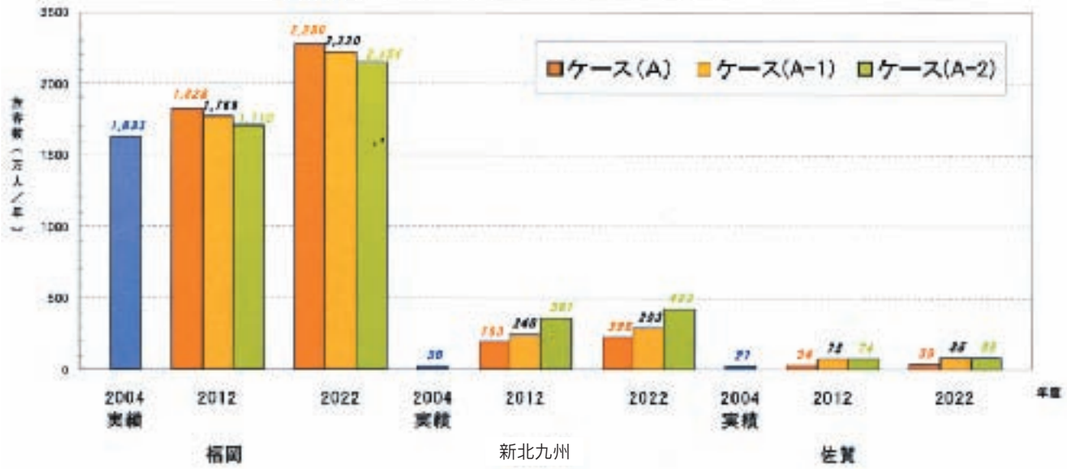
(3)新北九州空港と佐賀空港の空港アクセス利便性を飛躍的に向上させるケースの予測結果

①旅客数

福岡空港の需要逼迫の緩和策として、新北九州空港、佐賀空港へのアクセス利便性を飛躍的に向上させた場合の福岡空港の需給逼迫の緩和状況を試算してみました。空港バス路線を大幅に拡充させたケースであるケース(A－1)では、福岡空港は2022年で約2,280万人から約2,220万人と約60万人(3%)の減少となります。また、空港バス路線のほか、新北九州空港へのアクセス鉄道を整備したケース(A－2)では、2022年で約2,150万人と約130万人(6%)の減少となります。

今回の需要予測モデルでは以上のように試算されましたが、新北九州空港は開港したばかりであり、その利用状況や福岡空港への影響など今後注目していくことが必要です。

■国内線旅客数予測結果(福岡空港、新北九州空港、佐賀空港)　万人／年



■国内線年間旅客数予測結果(福岡空港、新北九州空港、佐賀空港)

空港名	ケース		実績値 2004年	予測結果(万人／年) 2012年	需給逼迫緩和効果 万人	2017年	需給逼迫緩和効果 万人	2022年	需給逼迫緩和効果 万人	2032年	需給逼迫緩和効果 万人
福岡	ケース(A)		1,633	1,828	－	2,044	－	2,280	－	2,711	－
		ケース(A－1)		1,769	-59	1,989	-55	2,220	-60	2,643	-68
		ケース(A－2)		1,710	-118	1,921	-123	2,154	-126	2,553	-158
新北九州	ケース(A)		30	193		209		226		258	
		ケース(A－1)		248		269		293		332	
		ケース(A－2)		361		392		423		476	
佐賀	ケース(A)		27	34		36		39		46	
		ケース(A－1)		75		80		85		100	
		ケース(A－2)		74		80		85		99	

(年度)

需給逼迫緩和効果はケース(A)との差分です。
新北九州空港の設定路線:羽田、伊丹、関空、中部、名古屋、札幌、宮崎、鹿児島、沖縄

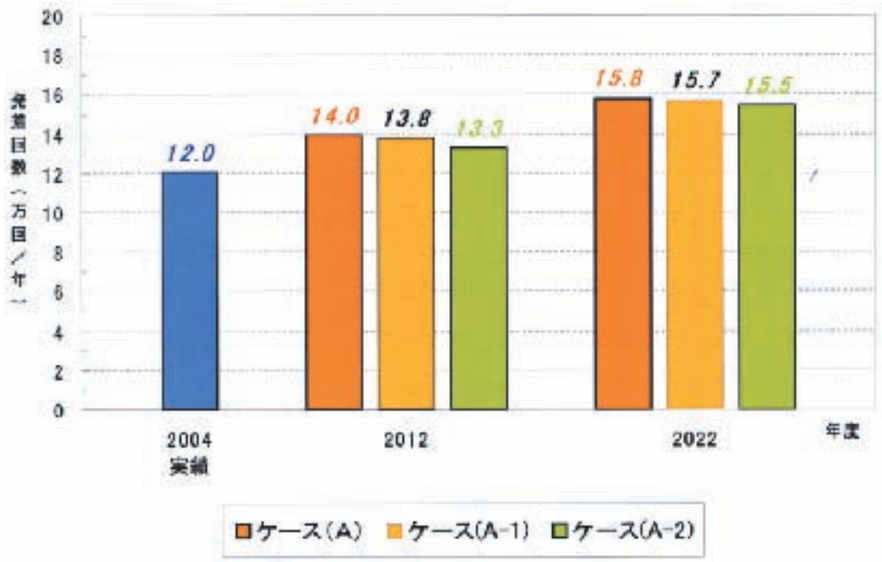
5. 福岡空港の航空需要予測の結果

②発着回数

福岡空港の需給逼迫緩和策として、新北九州空港、佐賀空港へのアクセス利便性を飛躍的に向上させたケースとして、空港バス路線を大幅に拡充したケース(A—1)及びバス路線の拡充のほか新北九州空港にアクセス鉄道を導入したケース(A—2)について試算しました。

ケース(A)に比べケース(A—1)では2022年で約0.1万回、ケース(A—2)で約0.4万回の減少となります。

■福岡空港の発着回数予測結果　万回／年



■福岡空港の発着回数予測結果

空港名	ケース		実績値 2004年	予測結果(万回／年) 2012年	需給逼迫緩和効果 万回	2017年	需給逼迫緩和効果 万回	2022年	需給逼迫緩和効果 万回	2032年	需給逼迫緩和効果 万回
福岡	ケース(A)		12.0	14.0	－	14.9	－	15.8	－	17.6	－
		ケース(A－1)		13.8	-0.2	14.7	-0.2	15.7	-0.1	17.4	-0.2
		ケース(A－2)		13.3	-0.7	14.2	-0.7	15.5	-0.4	16.9	-0.7

(年度)

需給逼迫緩和効果はケース(A)との差分です。
資料)2004年実績値は空港管理状況調書(無償旅客・不定期便等を含む)

・試算にあたり設定するアクセス交通については、事業主体、採算性についての検討はしていません。予測結果は、空港容量制約を設けない場合の福岡空港の潜在需要であり、無償旅客・不定期便等を含んだ値です。

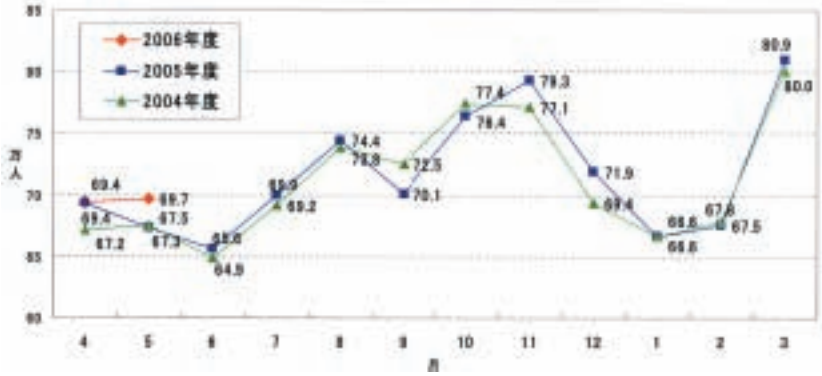
5. 福岡空港の航空需要予測の結果

コラム20 新北九州空港の開港後の北部九州等の各空港の羽田路線の利用状況

新北九州空港開港後の北部九州等の各空港の羽田路線の利用状況について対前年前月比を確認したところ、4月期、5月期とも新北九州空港は3倍を超える大幅な伸びを示しています。また、山口宇部空港の対前年比については、若干下回っていますが、福岡空港、大分空港については下回っておらず、新北九州空港の開港による福岡空港の需給逼迫の緩和は確認できませんでした。新北九州空港は開港したばかりですので、今後とも各空港の利用動向については注視していく必要があります。

資料）2004年度実績値は「航空輸送統計年報」
（有償旅客のみ、無償旅客・不定期便は除く）、
2005年度及び2006年度は速報値。

■福岡・羽田路線の月別利用状況



■新北九州空港開港後の北部九州等の各空港の羽田路線利用状況

単位：人

		2006年				
		3月(3/16~31)	4月<前年同月比>		5月<前年同月比>	
羽田路線	福岡空港	416,811	694,341	<1.00>	697,100	<1.04>
	新北九州空港	60,446	91,429	<3.57>	95,734	<3.64>
	大分空港	63,823	100,996	<1.00>	109,938	<1.04>
	山口宇部空港	39,300	68,685	<0.97>	74,703	<0.99>
	4空港計	580,380	955,451	<1.07>	977,475	<1.11>